

第 1 1 回大崎市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和 7 年 1 月 2 3 日（木） 1 5 時 0 0 分から 1 6 時 4 0 分

2 開催場所 大崎市本庁舎 4 階 災害対策本部室

3 参加者

（1）構成員

大崎市長 伊藤康志
教育委員会 教育長 熊野充利
教育長職務代理者 青沼陽一
教育委員 佐藤寛
教育委員 堀智恵子
教育委員 早坂正年
教育委員 伊藤亜希

（2）担当課

副市長 目黒嗣樹
教育部：部長 伊藤文子，参事 菅原栄治，参事兼教育総務課長 平地久悦
参事兼生涯学習課長 古内康悦，学校教育課長 大場宏昭
文化財課長 高橋誠明，学校教育課副参事 千葉弘昭
学校教育課長補佐 藤木慶，教育総務課長補佐 菊池勝行
民生部：部長 大場一浩，子育て支援課長 木村博敏，子育て支援課副参事 伊藤智恵
産業経済部：部長 寺田洋一，産業商工課長 佐藤敬美
市民協働推進部：部長 藤島善光，政策課長 高橋直樹，日本語学校推進室長 茂和泉浩昭
政策課長補佐 遠藤愛，まちづくり推進課長補佐 大和田克也
政策課主幹兼係長 操一博，政策課主事 亀ヶ川竣介

（3）傍聴者 5 名

4 審議

協議事項

- 第 1 号 大崎市の学力向上の取組みについて
- 第 2 号 大崎市の不登校対策について

報告事項

- 第 1 号 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置について
- 第 2 号 放課後児童支援施設整備について
- 第 3 号 キャリア教育の促進について
- 第 4 号 おおさき日本語学校の概要について

5 会議資料

- 資料 1 大崎市の学力向上の取組みについて
- 資料 2 大崎市の不登校対策について
- 資料 3 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置について
- 資料 4 放課後児童支援施設整備について

資料5 キャリア教育の促進について

資料6 おおさき日本語学校の概要について

7 会議の概要

- ・事務局の進行により開会
- ・市長から開会のあいさつ
- ・市長が座長となり会議を進行

協議事項

第1号 大崎市の学力向上の取組みについて（資料1）

第2号 大崎市の不登校対策について（資料2）

○市長：委員の皆様からご意見、ご感想なども含めてご発言いただきたい。

○青沼教育長職務代理者：これまで学校の役割としての学力の向上については、永遠の課題として挙げられてきたが、現在の社会情勢などから喫緊の課題となっている現状だ。また、学力向上についてどの視点から捉えるかについても対応は異なる。学力テストの点数が低いことを問題にしているのか、生きる力としての学力を持つことなのか考え方は異なる、本協議については、学力テストの視点から「大崎市学力向上グランドデザイン」について説明を受けたが、私からは2点述べたい。1点目は、新たな取組みとして様々挙げられており、市としても予算措置に対応してくれたことは非常にありがたいが、近年学校訪問の際に子どもたちに対して感じることで、文字を書くということが難しくなっていることが挙げられる。これについても今後考えるべき課題だろう。新たな取組みとして、AIドリルやデジタルテストが組み込まれているが、あくまでツールとしての役割であるということ認識しながら実践していく必要がある。2点目としては、これらの取組みは、誰のためのものなのか考えていただきたい。公教育は平準化でなければならないため、子どもたち一人ひとり取り残すことなく、学力の底上げをしなければいけない。最後に、家庭の協力なくして学力向上はありえないという考えであるが、各家庭に対して、学校からのほたらきかけだけではなく、大崎の子どもたちの在り方について、市全体として支え、伸ばしていくことにより子どもたちも広い学力観を育んでいくと考える。

不登校対策については、家庭の問題が多いこともあり、家庭との連携が重要になってくる。子どもの心のケアハウスにおける学習支援の機能拡充（サテライト方式による学校展開）については、期待のできる取組みであり、その中で最も重要な取組みとして、学び支援教室（ほっとルーム）と別室登校である。やはり学校の近い場所で対策をしない限り、不登校問題は解決しないだろう。

○佐藤委員：「大崎市学力向上グランドデザイン」について、素晴らしい取組みだと感じている。一般的な学力向上については必要だろうし、学校と家庭、地域が連携し子どもたちを育み支えていく視点は重要であるが、学力だけでなく人間性や道徳心なども養えるような方向へも進めていただきたい。

不登校対策については、積極的に進めても、子どもたちに負担がかかるため、ケアハウスの推進は重要であり、今後も進めていただきたい。また、学力向上対策とも同様だが、家庭や地域とも協力しながら支えていくことが大切になってくる課題でもある。また、家庭や地域においても価値観が多様化しているため、意見交換などを行っていただきたい。学校での取組みも、子どもたちの意見を聞き入れやすい環境づくりや教室以外の場での居場所づくりにも努めていただきたい。

い。民間のフリースクールについては、極端な考え方や環境にならないように市が連携を図っていただきたい。

○堀委員：「大崎市学力向上グランドデザイン」について、内容通りしっかりと実践されれば、望まれる効果が期待できるため、ハード面としては非常に良い内容だと考えている。学力向上のために各家庭における取組みについて、学校側も子どもたちの家庭の状況が分かりづらく、踏み込んでいけない社会の流れとなっているが、どの時代でも普遍的な家庭の在り方というものは変わらず、親子の絆が育まれていた。不登校対策についても同様のことが言えるが、学校以外の居場所について、本来は家庭であってほしいと考える。居場所がないからフリースクールに通う流れから、家庭環境が希薄になっている。子どもたちの学力についても、自分自身の人生を考える場面において、親と一緒に話し合える環境が大切である。学力向上対策、不登校対策について両取組みも、どちらかというハード面的な側面があり、ソフト面については、両親、学校の先生や地域の人々とのかかわりを持ちやすくするような考え方の取組みに期待したい。

○早坂委員：学力の良し悪しが、子どもたちの自己肯定感を損なうことがあってはいけない。学力の良し悪しに関係なく幸せだと感じれる子どもを育てなければいけない。親や社会の価値観が多様化している現代において、学びが多様化していないことに対して懸念を抱いている。私の考えとしては、学力以上に生きる力が重要だと考えており、自然豊かな大崎市だからこそ学べることがあるだろう。また、学力向上のために子どもたちの自由な時間を奪ってはいけない。学力だけでなく、スポーツや芸術に励んでいる子どもたちも尊重しなければいけないと考える。学力向上としての取組みを進めながら、子どもたちが自己肯定感や心の豊かさを養えるような教育の仕組み作りも考慮いただきたい。一方で、不登校対策についても言えることだが、不安定な学級状況において、学力の低下が表れてくることが読み取れるため、この課題については対応に努めなければいけない。不登校の子どもケアだけでなく、登校している中でも精神的に不安定な子どものケアの必要性も考えられる。

○伊藤委員：私自身以前は放課後児童教室で働いており、その経験を通して、子どもたちは私に親にも先生にも言えない本音をこぼすことがある。話を聞くと、学校へ行くのは楽しいが、宿題が分からずつまらなく感じている子どもが多かった。宿題と一緒に取組み、それでも分からないことは先生に相談するように促すが、結局相談せず終わってしまうケースが多い。子どもたちはやる気を出せば、何事にも取り組める能力を持っているため、先生方にはその部分を引き出し、その先に進めるように接していただきたい。よむ YOMU ワークシートや AI ドリルは素晴らしい取組みだが、宿題が分からず、それを恥ずかしいと感じている子どもたちにとっては、先生の言葉や指導力が必要になってくるため、学級の子どもたち全員を取り残さずに努めていただきたい。また、あいさつの重要性も感じており、あいさつができない親子が多く、そのような子については、宿題も疎かになっている傾向がある。そのため、家庭での取組みについても詳細に明記されている点は大変評価している点である。

不登校対策についてであるが、私の子どもに小学校の思い出を聞いたところ、校長先生とサッカーをしたことだと答えた。私の考えは、子どもたちにとって学校生活はとても大切な経験であり、大らかな心で皆で何かを成し遂げた経験というものは、社会に出た際にも通じるものだと考えている。フリースクールなども重要な取組みだが、一人でも多く学校生活を送れる子どもであってほしい。

○熊野教育長：大崎市の子どもたちは素晴らしいなと率直に感じている。明るく元気で人の話をよ

く聞く子どもたちである。気温が寒い中でも、校庭で元気に遊ぶ姿を見ていると、大変うれしく感じる。私が教育長に着任して間もなく、コロナの影響により、子どもたち学校生活も一変した。コロナの影響も大分落ち着いてきたとはいえ、いまだにマスク着用の生活など続いている現状であるが、その中でも、生き生きと自分の考えを表現し、多様な学びに向かってほしいと感じている。本日、学力テストにおいて様々な意見を頂戴したが、国としては、将来子どもたちが生きていく立場として、必要な能力として考えているため学力テストを行っていると考えられる。子どもたちが元気に幸せに生きてくために、どのようにすべきかを皆で考える必要がある。社会情勢も目まぐるしく変化しているため、我々がしっかり対応して考えていかなければならない。本協議事項2件については、子どもたちの健やかな成長を願う「知・徳・体」の考えの土台があることを忘れてはいけない。家庭や学校の役割、そして地域の支援により、子どもたちの成長を願いたい。よむYOMUワークシートについては、読解力や思考力の向上、AIドリルについては、自ら進んで学びに向かう力を養い、ロイロノートについては、子どもたちの対話力やまとめる力を養うために、それぞれを有効に使いながら、子どもたちの健やかな成長を目指すよう努めていく。不登校対策については、不登校になった子どもと保護者の声を聞き、そこから、学校を中心とした考え方の必要性を再認識した。学校生活の中では、子どもたちと先生の生きた会話があり、そのひとつひとつに多様な考えを持つ。その段階で、ふと思ひ直す場があれば、解決につながるかもしれない。今後も子どもたちのために様々な取組みに努めたい。そのために市全体として部局を超えて協力いただきながら進めていきたい。

- 伊藤市長：委員皆様方からご意見を頂戴した。本日出された委員からの意見を十分参考にし、本議案について、進めさせていただくことで決定することに、異議はないか。
(了となる。)

報告事項

第1号 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置について（資料3）

- 青沼教育長職務代理者：協働のまちづくりの観点から、市民に理解をいただくまで時間を要するため、粘り強く取組んでいただきたい。

第2号 放課後児童支援施設整備について（資料4）

- 青沼教育長職務代理者：放課後児童支援施設整備について、より良い環境整備に努めていただき、感謝したい。

第3号 キャリア教育の促進について（資料5）

- 青沼教育長職務代理者：キャリア教育については、現在は小中学校も対象として展開されているものであり、今後も幅広い企業を絡めて促進を図っていただきたい。

第4号 おおさき日本語学校の概要について（資料6）

- 早坂委員：一般向けの学校見学会などは予定されているのか。
○茂和泉日本語学校推進室長：2月に地元住民を対象とした内覧会を予定している。一般向けの内容のものについては、学校生活の実態を知っていただくため、学校開校後に行う予定である。
○青沼教育長職務代理者：私自身も多文化教育に携わった経験から、地域の理解が重要となってく

るため、地域住民に理解をいただきながら、留学生の教育にも努めていただきたい。

○**茂和泉日本語学校推進室長**：地域への理解については、力を入れている。対して、地域住民の不安な声についても届いているため、理解を得るための取組みを継続していかなければいけない。

8 閉会

熊野教育長から閉会のあいさつ

以 上